



A:平成27年度
木育マイスター育成研修
B:木育教室
(湖畔幼稚園)
C:だいの木プロジェクト
(釧路短期大学)
D:地産地消バスツアー
(音別町体験学習センター
こころみ)



くしろの木育と木育マイスター

「木育(もくいく)」とは「子どもをはじめとするすべての人びとが、木とふれあい、木に学び、木と生きる」こと。平成17年に北海道で生まれた言葉です。

「木育マイスター」は木育を普及させる専門家で、北海道が実施する育成研修(平成27年度は釧路管内で開催)を修了した者が認定されます。平成29年1月現在、全道に200名、釧路管内では9名が認定され、木育イベントの企画・運営や、木育プログラム(アクティビティ)の開発、木育のコンサルティングやコーディネートを行っています。

釧路管内の林業・林産業は、開拓時から現代まで続く地場産業の一つです。「森林」は地球温暖化の防止、国土の保全、水源涵養、生物多様性の保全など、いわゆる「森林の多面的機能」として理解されることも多くなっていますが、森林を木材として利用する「林業・林産業」は、どのような形で地域のくしろに関わってきたのでしょうか。

●森林・林業

明治初期における北海道の大半は森林で、その未開の森林地は面積で400万町歩とされ、開拓使はそれを国有林に編入しました。北海道における林業はその国有林からの立木払下げからスタートします。釧路では、明治32年御料局、網走御料地内から白楊樹(マツチ軸木原材料)を山田慎へ特売許可を出したのが最初で、その後、三井物産、前田製紙(～北海紙料、富士製紙)などが続きます。この頃の釧路国6郡全体の森林面積は40万町歩、蓄積は9,685万石とされ、払い下げ量も大正7年において184万石と釧路が全道の14%を占めるほか、北見や十勝がそれぞれ41%、9%を占めるなど道東地域が造材の中心地となっていました。そしてこれらの造材が釧路川や阿寒川、鉄道を通じて集まる釧路港は木材の一大搬出基地となり、その多くが枕木などとして国内・海外に移輸出されていました。その後、第一次世界大戦などを経て、資源量が減少するに及び、その実績は徐々に停滞をしていくこととなります。

第二次世界大戦による伐採や戦後の木材需要に対応するため、昭和30～40年代は、全国的に天然林を伐採した跡地等で行われる人工造林いわゆる「拡大造林」が進められました。北海道においても民有林を中心にカラマツの造林が盛んになり、標茶町国有林においても「パイロットフォレスト」など未立木地への造林が積極的に行われ、同時に機械化も徐々に広がっていきました。しかしながら、高度経済成長期の木材需要を補うため



▲造材風景



▲馬による木材運搬

に進められた木材の輸入は、その価格差などから次第に国産材を圧迫していくことになります。現在においてもその影響は残り、一時期より回復したものの、北海道内における自給率は60%程度となっています。

●釧路川・阿寒川と木材の流送

釧路地域、とくに阿寒などの山間地の開拓は明治30年前後から始まり、その開拓の際に耕地を得るために木の伐採がすすみましたが、やがて造材業者や仙夫(そまふ)が入るようになり、本格的に森林資源を開発しました。切り出された多くの木材は、阿寒川や釧路川を利用して釧路に運搬されました。明治43年における釧路川・阿寒川などを通じた流送材の総量は15万石で、そのほとんどが富士製紙、釧路製材造船、草野製軸などにおいて加工され、ほぼ全量に相当する量が地元でも使われていました。

その後、木材の流送量は増大し、大正3年における阿寒川の流送木材量は34万石弱に達し、釧路国全体の木材流送量の47%になるほどでした。大正9年に完成した鳥取村(現・釧路市鳥取南)の富士製紙釧路工場では、原料の木材を阿寒湖畔や阿寒川上流域から阿寒川と仁々志別川を流送して工場取水口付近の陸揚網場から、また釧路川上流からは釧路川を使って流送して、後の天寧(てんねる)駅の対岸付近、現在の北見団地付近に設けた陸揚網場から馬車軌道で搬入していました。

その流送も大正末期から阿寒方面へは雄別鉄道、網走方面には釧網線と鉄道が伸びることで、しだいに距離や量が減少していくことになります。阿寒川においては昭和29年が最後の年となりました。釧路川を「下る」流送が、「上る」に変わったのは、昭和41年の水面貯木場の完成です。増大する輸入木材の需要に対応するため、昭和38年より釧路川上流右岸に掘込式の水面貯木場の造成を開始していました。以後、「上る」流送が、平成26年まで続くことになります。

●製紙業・林産業

釧路町の天寧(現・中央)には、明治34年、前田正名が日本で最初のバルブ工場を設立、のち北海紙料、富士製紙と経営は変わり、大正2年の火災で焼失するまで、釧路川や阿寒川流域の森林から木材を搬入し、バルブを製造していました。大正9年には、鳥取村において富士製紙釧路工場が操業を開始。工場は(初代)王子製紙を経て十條製紙に継承、現在でも日本製紙釧路工場として操業を続けています。

第二次世界大戦後においては、復興とともに森林の多くが薪炭・紙パルプ用として伐採され、高度経済成長の下で建築用材の需要も増大しました。木材需要を国内で賄うことが難しくなった昭和30年代には、その需要を賄うべく、木材輸入の自由化が段階的にスタートし、昭和39年に木材輸入は全面自由化されました。その影響は釧路にも表れ、昭和40年代には、北米からのチップや南洋のラワン材を受け入れるための、チップヤード(中央埠頭)や水面貯木場(釧路川:釧路港東港区)が造成されました。

水面貯木場周辺には木材工業団地(釧路町)も造成されました。そもそも木工場は大量の原木保管土場を必要としたので、その工場は釧路川下流の釧路市の材木町・川上町・旭町に集中(鉄道貨車材を主とした工場は旧釧路駅周辺)していましたが、昭和20年代後半からトラック輸送が始まったことや、市街地が拡大したことなどに伴い、これら木工場の木材工業団地への移転が促進されました。しかしながら、建築工事の多くが鉄筋コンクリートに変わり、漁船も鉄鋼船・FRP船となるなど木材需要が減少したこと、2度のオイルショックが追い打ちをかけ、工場の撤退も相次ぐこととなりました。このことから各社は、構造用集成材やプレカット、ログハウス、外構、NCルータによる加工など、より付加価値の高い生産品の製造に軸足を移し、現在でも地域の一産業としての役割を担っています。



▲輸出を待つ枕木材(釧路港?)



▲釧路川下流域の流送



▲浪花町の煉瓦倉庫(木骨造)



▲富士製紙釧路工場 市立釧路図書館蔵
(出展:写真絵巻書に見る遠い日のくしろ
2003)



▲道内唯一の釧路港東港区水面貯木場
(出展:国土地理院) 昭和52年

※このページは「くしろ木づなフェスティバル2014」で開催されたパネル展「くしろ産業歴史展「林業篇」」(釧路市産業推進室)を冊子用に再構成したものです。

くしろの産業『林業篇』

くしろの木材を使った建築物



釧路市では平成23年10月に「釧路市地域材利用推進方針」を策定し、市が建設する公共建築において、釧路地域の木材を積極的に活用してきました。近年、釧路地域の木材は公共施設だけではなく商業施設などの建築においても利用されるほか、家具にも利用がすすんでいます。



釧路市動物園アルパカ舎



釧路市役所防災庁舎



音別町行政センター



釧路市西部子育て支援センター



釧根電気工事業協同組合事務所
(設計: (株)長谷川建築設計事務所)



大楽毛よし幼稚園
(設計: 三浦建築設計事務所)



釧路空港



釧路短期大学



国設阿寒湖畔スキー場



DOUBLE NICKEL (設計: くりえいと創)



道の駅 阿寒丹頂の里
(クレインズテラス)



菓子処松屋
(設計: 生活建築設計室)



山花温泉リフレ



釧路総合振興局応接室



釧路市役所秘書課

くしろの木を使った住宅 ～くしろ・ねむろ「木づな」の家協議会～



くしろ・ねむろ「木づな」の家協議会は、国土交通省の地域型住宅グリーン化事業(旧:地域型住宅ブランド化事業)を活用しながら、地域の資源を利用し、地域の関係者が連携して地産地消を進めるべく地域型住宅を建設しているグループです。

このグループでは、住宅の性能や様式を冬季は寒冷な気候のため、「高気密・高断熱性能の確保」を共通ルールとして設定し、性能と地域性に注視し、長期優良住宅の認定を受けた、良質な木造住宅を建築しています。

グループ構成員一覧

<設計>

株式会社 長谷川建築設計事務所 北海道釧路市昭和南5-4-6 TEL 0154-55-6337
MOBI建築・都市研究所 北海道川上郡弟子屈町熊牛原野6-20 TEL 015-482-5351
紀巧舎 北海道釧路市入江町6-6 TEL 0154-23-5907
くりえいと創 北海道釧路市興津2-4-2 TEL 0154-92-0004
生活建築設計室 北海道阿寒郡鶴居村字幌呂原野南3線36-33 TEL 0154-64-6114
丸善木材株式会社 北海道釧路郡釧路町桂4-15 TEL 0154-37-1561
厚浜木材加工協同組合 北海道厚岸郡浜中町茶内旭3-3 TEL 0153-65-2321

<施工>

北海ハウス株式会社 北海道釧路市浪花町8-4-2 TEL 0154-37-0711
有限会社 丸裕田中建設工業 北海道釧路市美原5-60-2 TEL 0154-36-1313
株式会社 マルマサ長久保建設 北海道釧路郡釧路町中央8-29 TEL 0154-40-2568
株式会社 E.works 北海道釧路市入江町6-6 TEL 0154-23-5960
株式会社 小野寺組 北海道釧路市阿寒町富士見3-9-12 TEL 0154-66-3306
大友建設 北海道釧路市愛国東1-28-14 TEL 0154-36-7545
株式会社 サトケン 北海道川上郡標茶町旭2-8-23 TEL 015-485-2218
有限会社 桂田工務店 北海道釧路郡釧路町中央2-36-4 TEL 0154-40-1041
丸善木材株式会社 北海道釧路郡釧路町桂4-15 TEL 0154-37-1561
厚浜木材加工協同組合 北海道厚岸郡浜中町茶内旭3-3 TEL 0153-65-2321



La terra ed acqua(設計: くりえいと創)



熊牛の家(設計: MOBI建築・都市研究所)



くしろ・ねむろ「木づな」の家協議会

【代表者】 (株)長谷川建築設計事務所
北海道釧路市昭和南5-4-6
TEL 0154-55-6337
【事務局】 丸善木材(株)
北海道釧路郡釧路町桂4-15
TEL 0154-37-1561



カラマツやトドマツなどの地元産の木を使った柱や梁、垂木などの一般住宅用の建材や土木・測量用の資材です。

※販売しているサイズ・樹種は加工工場によって異なります。詳しくは23～25ページの各販売店にお問い合わせください。



名称	主な用途	サイズ
角材(かくざい)	家の柱(管柱)	W120・105・90×D120・105・90×L4000・3650・3000・2730
間柱(まばしら)	柱と柱の間の材	W105×D24～30×L3650・3000・2730
梁(はり)	屋根などを支える横に渡す材	W105×D150～300×L3650・2730
根太(ねだ)	床板を支える材	W45×D105×L3650・3000・2730
垂木(たるき)	屋根の野地板を張る材	W45×D45×L3650・3000・2730
胴縁(どうぶち)	外壁の下地の材	W45×D18×L3650・3000・2730
貫(ぬき)	柱と柱を貫いて横に渡す材	W105×D18×L3650・3000・2730



角材



間柱



梁



根太



垂木



胴縁



貫



丸棒



土木用木杭

※垂木・根太はW45×D30～105として、区別がない場合があります。
※丸棒(φ40～300)や土木用木杭、チェーン杭などを取り扱う加工工場もあります。



羽目板(カラマツ)



羽目板(カラマツ:曲面)



フローリング(カラマツ)施工状況
(林業・林産従事者研修センター)



羽目板(カラマツ)施工状況

名称	主な用途	サイズ	価格
フローリング(カラマツ)	フローリング	t12・15・18×W105×L1820～3650	4,500～5,400円/m ²
羽目板(カラマツ)	内装材	t12・15・18×W105×L1820～3650	3,400～4,800円/m ²
羽目板(カラマツ:曲面)	内装材	t35×W105×L1820～3650	7,500円/m ²
羽目板(トドマツ)	内装材	t12・15・18×W105×L1820～3650	3,400～4,800円/m ²

カラマツ、トドマツ、タモの無垢材を利用した内装材です。

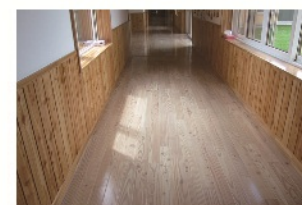
※掲載商品以外にも様々なラインナップをご用意しております。詳しくはお問い合わせください。

厚浜木材加工(協)

北海道厚岸郡浜中町茶内旭3-1
TEL 0153-65-2321



平成27年度北海道新技術
・新製品開発賞ものづくり
部門優秀賞受賞



複合フローリング鶴ハード(カラマツ)
施工状況(大楽毛よしの幼稚園)



ファンシー札鶴ピーリング(アカエゾマツ)施工状況(釧路総合振興局)

名称	主な用途	サイズ	設計価格
複合フローリング鶴ハード	フローリング	D17×W93×L900(直貼用)	18,000円/m ²
複合フローリング鶴ハード	フローリング	D17×W93×L900(釘打用)	13,000円/m ²
Sライト	内装材(不燃)	D6×W910×L1820	14,400円/枚
ファンシー札鶴ピーリング	内装材	D4×W610×L2430	5,800円/枚

カラマツ、トドマツ、アカエゾマツ、センの化粧合板を利用した内装材です。

※掲載商品以外にも様々なラインナップをご用意しております。詳しくはお問い合わせください。

札鶴ベニヤ(株)恋問工場

北海道白糠郡白糠町コイトイ27-3
TEL 01547-5-2136